

岩手県奥州市立 **前沢中学校****確認テスト + ドリルで基礎・基本の定着****～ 繰り返し学習で正答率・学習意欲の向上～**

前沢中学校では基礎・基本の定着に、宿題や授業のまとめ、学習活動「学習クラスマッチ」でeライブラリを活用しています。今回は確認テストとドリルを組み合わせた授業の様子と、学校全体の取り組みをご紹介します。

授業のまとめの「確認テスト」で理解度を確認

▲ 先生から出題された確認テストに取り組みます

国語 1年：指示する語句と接続する語句

この日の授業では、まとめの時間に先生から確認テストを出題し、**新しく学習した内容の理解度を確認**しました。先生は生徒の進捗を先生画面で確認しながら次に取り組むドリルの課題を配信します。

生徒の確認テストが終わりに近づいたタイミングで新たな課題を配信することで、早く終わった生徒も次の課題にスムーズに取り組みました。

確認テストの結果から、次の授業での復習内容を確認

▲ 教科書を確認しながら問題を解いていきます

先生は授業後に確認テストの成績を確認し、次の授業の準備をおこないます。次の授業は、**確認テストの結果をもとに前時の復習**からスタートしました。

演習の時間を多く設けることができる日は、より学習内容の理解を深めるため、ドリルを実施した後に確認テストを行います。**確認テストとドリルの出題順や課題内容は、授業の進行状況や生徒の理解度に応じて使い分けています。**

インタビュー 正答率アップが、純粋に喜びや意欲に繋がる

eライブラリは基本的な内容の定着を図るために、授業や宿題で使っています。国語でも文法や古典などの分野で、**学習している内容が本当に身についているのかの確認**で利用しています。

ドリルを繰り返し行うことで正答率が上がるので、生徒は純粋に喜び、やる気があります。また、**ふりかえりの画面の木を友達同士で見せ合いながら「僕のはまだ芽が出てないからもっと頑張る！」**と言って頑張っている生徒の姿も見られます。

今後は確認テストなどの学習を積み上げて成績を蓄積していきながら、その成績を先生方が生徒への指導や声掛けに活用していければと考えています。



研究主任
伊藤 真由子先生

「学習クラスマッチ」で確認テストの平均点をクラスで競う



▲ 1問1問じっくり取り組んでいます

テスト前の年2回、クラスごとに確認テストの平均点を競う「学習クラスマッチ」を行っています。1週間、朝学習の時間に先生から対象単元のドリルを配信し、最後に確認テストを実施して平均点を競います。

毎朝**繰り返し類似問題を解くことで、しっかりと定着を図り、テストの点数アップに繋がります。**

これまでは朝学習の課題を先生がプリントで用意していましたが、ドリルに切り替えたことで教材準備の時間が省け、手軽に取り組むことができました。

特別支援学級・別室登校での活用



▲ 学年を越えて系統別に学習できる「テーマ学習」

特別支援学級や別室登校の生徒にも先生からの声掛けで活用しています。生徒はタブレット操作に慣れており、ドリルは選択式が中心なので、抵抗なく取り組むことができます。

先生に質問することが恥ずかしくてできない生徒も、eライブラリの画面内であれば、**前の学年や小学校の問題に戻って復習することができます。**「割り算がちょっと苦手」という場合も、小学校からの教材に遡って問題に挑戦するなど、生徒一人ひとりの課題に向き合っています。

eライブラリ活用のねらい

- 自主学習や家庭学習のひとつのツールとして、ワークと併用しながら生徒自ら取り組みやすいツールを使い学習するように声掛けをしている
- 「学習クラスマッチ」の朝学習を紙の問題から切り替えて教材準備の時間を削減する

インタビュー

間違いに気付くことがチャレンジ意欲に繋がる

生徒はeライブラリの問題を解いて、自分ができていると思っていたにもかかわらず間違えている問題があると「あれ？」と思います。その**「あれ？」に気付くことで、もう一度挑戦したくなり、問題へのチャレンジ意欲に繋がっています。**eライブラリは勉強に向かうのが苦手な生徒にとっても、取り掛かりとしてすごく良いツールだと思います。

また、教員間でもICTが苦手な先生にとって、**eライブラリは生徒たちと一緒にタブレットを開く機会になっており、タブレットを使用することのハードルを低くしてくれていると感じています。**

今後も実践を続けながら、eライブラリやICT機器の有効性を実感しつつ、生徒たちの視野をさらに広げ、可能性を広げていきたいと考えています。



校長
千葉 賢一 先生